

# 船舶事故調査報告書

令和4年1月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 佐藤 雄二（部会長）

委員 田村 兼吉

委員 岡本 満喜子

事故種類	転覆
発生日時	令和3年4月9日 21時00分ごろ
発生場所	岡山県笠岡市白石島北方沖 沖ノ白石灯台から真方位051° 1,230m付近 (概位 北緯34° 25.4′ 東経133° 31.5′)
事故の概要	漁船優生丸は、揚網中、転覆した。 優生丸は、船長及び甲板員が溺死し、船外機等に濡損を生じた。
事故調査の経過	令和3年4月12日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため、行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 優生丸、4.99トン OY3-17486（漁船登録番号）、個人所有 10.30m (Lr) × 2.63m × 0.83m、FRP ディーゼル機関、48.2kW、昭和54年11月26日 第271-10614号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 60歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和62年11月20日 免許証交付日 平成29年11月30日 (令和5年11月18日まで有効) 甲板員 58歳
死傷者等	死亡 2人（船長及び甲板員）
損傷	機関等に濡損
気象・海象	気象： 本船が転覆した状態で発見された場所の南南東方約27kmに位置する多度津特別地域気象観測所における風向及び風速の観測値は、次のとおりであった。

時刻 (時:分)	平均		最大瞬間		天気	視程 (km)
	風向	風速 (m/s)	風向	風速 (m/s)		
17:30	北北東	7.1	北北東	11.2		
18:00	北北東	6.5	北北東	10.2	晴れ	20.0
18:30	北北東	7.2	北東	11.0		
19:00	北北東	6.4	北北東	10.8	晴れ	20.0
19:30	北北東	5.5	北北東	9.0		
20:00	北北東	5.7	北北東	8.6	晴れ	20.0
20:30	東北東	4.2	東北東	7.9		
21:00	東北東	3.6	東北東	6.8	晴れ	20.0
21:30	北北東	5.3	北北東	8.4		

海象：波高 約 1.5 m以上、潮汐 上げ潮の末期、水温 約 16℃

事故の経過

本船は、船長及びその家族の甲板員が乗り組み、底引き網漁の目的で、令和3年4月9日17時15分ごろ以前に笠岡市北木島<sup>かなぶる</sup>金風呂漁港を出港した。

船長の親族で僚船（以下「僚船A」という。）の船長は、風が強くなると見込まれるので船長と一緒に出港して同じ漁場で漁をしようと思ひ、17時15分ごろ船長に電話連絡をしたところ、既に漁場に向かっているとの回答だったので、別々に行動することとした。

僚船A船長は、所有の通船兼運搬船で笠岡港（笠岡地区）を出港して僚船Aの係留場所の金風呂漁港に移動し、18時00分ごろ僚船Aに乗り換えて金風呂漁港を出港し、北木島南西方沖の漁場で漁を行った。

僚船A船長は、船長のことが気になり、漁を止めて金風呂漁港に帰港したが本船が見当たらず、23時40分ごろ船長及び甲板員にそれぞれ電話連絡をしたが不通の状態であったので、北木島東南東方沖で漁を行っていた僚船（以下「僚船B」という。）の船長に電話連絡をしてレーダーによる本船の搜索を依頼した。

僚船A船長は、僚船B船長からほぼ停泊状態の本船と思われる映像を見つけたとの連絡を受けた後、別の漁船（以下「僚船C」という。）に乗船して僚船C船長とレーダー映像の場所に赴き、10日00時30分ごろ転覆した本船を発見した。

僚船A船長は、船長及び甲板員の搜索を始めるとともに僚船B船長に通報し、僚船B船長が、事故現場に向かいながら海上保安庁に救助を要請し、現場に到着後搜索に加わった。

搜索を行った海上保安庁の潜水士等により、04時00分ごろ船長が本船の近くで発見され、05時54分ごろ甲板員が操舵室内で発見

	<p>された。</p> <p>船長及び甲板員は、搬送された病院で死亡が確認され、短時間での溺死、死亡推定時刻が9日21時00分ごろと検案された。</p> <p>本船は、僚船B及び僚船Cにより笠岡港（港町地区）にえい航された。</p> <p>（付図1 事故発生場所概略図 参照）</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、通常、操業時には、長さ約100mの2本のえい航用ロープで、末端の袋部を含めて約80mの長さの網を約1knの対地速力で底引きをしながらえい航し、えい航用ロープは、船尾部のデリックのブームから甲板上約70cmの高さに吊り下げられたフック（以下「本件フック」という。）を通してから船尾方に出していた。（写真1、図1参照）</p> <div data-bbox="593 739 1267 1128" data-label="Image"> <p>A photograph of a fishing boat with a white cabin and a red hull, floating on a body of water. The boat is viewed from a side-on perspective, showing its deck and rigging.</p> </div> <p>写真1 本船（笠岡港港町地区に移動後）</p> <div data-bbox="724 1294 1414 1720" data-label="Image"> <p>A diagrammatic photograph of the fishing boat's stern during operation. Three callout boxes with arrows point to specific parts: 'デリックのブーム' (Derrick boom) at the top, '本件フック' (This hook) in the middle, and 'えい航用ロープ' (Ei-kang rope) at the bottom. The rope is shown extending from the hook towards the stern.</p> </div> <p>図1 操業中の本船（船尾部）のイメージ</p> <p>本船は、日頃、網の投入及び揚収時にはロープを本件フックから外していたが、発見された際、本件フックが装着されておらず、漁網は海底の何かに引っ掛かった状態であった。</p> <p>本船は、船体の舷側などに他船と衝突したような痕跡は認められな</p>

	<p>かった。</p> <p>本事故発生場所付近の海底は、岩が多く、ほとんどの漁師が、海底に引っ掛かった漁網を揚収する場合には、回頭し、又は機関を停止するなどして漁網を岩などから外して揚収していた。</p> <p>僚船B船長は、本事故当時、北木島南東方沖の北東の風を直接受ける場所で漁を行っており、風浪で回頭が難しい状況であったと思った。</p> <p>僚船A船長は、本事故前、本船が、漁網が海底の岩などに引っ掛かり、機関を使用しても外すことができず、風下に圧流されて船尾から風浪を受ける体勢になっていた場合、海水が流入するなどして、転覆しやすい状態になっていたのではと本事故後に思った。</p> <p>船長は、発見時、固型式の救命胴衣を着用し、操舵室で発見された甲板員は救命胴衣を着用していなかった。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり 不明 あり</p> <p>本船は、船長及び甲板員の死亡推定時刻の9日21時00分ごろ白石島北方沖において、約1.5m以上の波のある状況下、漁網が海底の岩などに引っ掛かった状態で、揚網したことにより、転覆したものと考えられる。</p> <p>船長及び甲板員は、溺死した。</p> <p>本船が転覆後、船長は海中に転落し、甲板員は船内に残され、それぞれ短時間で死亡した可能性があると考えられる。</p> <p>本船は、本件フックが装着されず、漁網が海底に引っ掛かった状態で発見されたことから、漁網が海底に引っ掛かった状態で揚網を行おうとした際、風下に圧流されて船尾から風浪を受け、海水が流入するなど復原性の低下した状態に陥り、転覆した可能性があると考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、夜間、本船が、白石島北方沖において、約1.5m以上の波のある状況下、漁網が海底の岩などに引っ掛かった状態で、揚網したことにより、転覆したものと考えられる。</p>
<p><b>再発防止策</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁船の船長は、天候の悪化が予想される時には出漁を控えること。</li> <li>・漁船の船長は、操業中、風浪が悪化した際に、漁網が海底の岩などに引っ掛かり、外すことができず、転覆などの危険な状態に陥る可能性がある場合には、漁網を速やかに投棄し、機関を使用して船首を適宜風浪に向けるなどして安定した状態にすること。</li> </ul>

	なお、その際の漁網の目印の浮標などは、時間的に余裕がある場合のみ取り付けること。
--	--

付図1 事故発生場所概略図

